

MIS028-P05

会場: コンベンションホール

時間: 5月25日 14:00-16:30

考古学編年研究に関連した過去10万年テフラのTL年代測定 TL dating of marker tephra for 100 ka relevant to archeological chronology

下岡 順直^{1*}, 長友 恒人²

Yorinao Shitaoka^{1*}, Tsuneto Nagatomo²

¹ 京都大学地球熱学研究施設, ² 奈良教育大学

¹IGS, Kyoto University, ²Nara University of Education

日本の考古遺跡の年代決定には、指標となる火山灰（テフラ）年代からの推定がきわめて有効である。指標テフラの年代推定には、主として火山灰層序法と放射性炭素（C-14）年代測定法から多くのアプローチがなされてきた。しかし、指標テフラの数値年代データセットは揃っておらず、必ずしも考古学研究において指標テフラを鍵層とする編年研究が完成しているとはいえない。また、C-14法とは原理が異なる手法を用いた暦年較正プログラムの検証も必要と考える。

今回、北関東、中国、南九州地方の火山を給源とする指標テフラのTL年代測定を行った。TL測定の試料採取は、より確度の高い年代を得るために、攪乱が少なく給源により近い一次堆積のテフラ堆積物が検出される露頭で行った。C-14法はテフラ層に含まれる炭化材の年代などからテフラ年代を間接的に求める手法であるのに対して、テフラのTL年代測定はテフラ中の鉱物を直接的に測定できることが大きな利点である。さらに、TL法では暦年較正が不要なので、暦年較正プログラムの使用が必ずしも奨励されていない20 ky BP (ky: 千年前) を超えるテフラやC-14法適用限界をこえる第四紀テフラについても有効であり、同じ測定手法によって連続的に時間軸を作成できるなどの利点も挙げられる。

発表では、指標テフラのTL年代測定結果と暦年較正C-14年代との比較について報告する。

キーワード: 指標テフラ, TL年代測定, 考古学編年研究, 鍵層

Keywords: marker tephra, TL dating, Archeological chronology, key bed